

平成30年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」

第3回「公園で自然を発見！」（テーマ：自然）

- 実施日時 平成30年8月3日（金）10時00分～16時15分
□受講者数 11名（教員8名、研修・聴講者3名）
□実施場所 都立和田堀公園（杉並区大宮）、杉並区立松ノ木小学校
□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義及び実習

（ゲストティーチャー：森林インストラクター東京会

宮崎健氏、田川裕則氏、丸山正氏）

（1）都立和田堀公園での自然観察

- ・観察の森で旧嵯峨侯爵邸屋敷林の自然観察
- ・済美山自然林で旧妙法寺の寺社林（武蔵野の薪炭林）の自然観察





(2) ネイチャーゲーム

- ・松ノ木小学校にて、ネイチャーゲーム（動物交差点、動物ヒントリレーなど）を実施
- ・午前の振り返り。知識を押し付けず五感で感じることで、感性を伸ばし、気づきを高め、自然への興味・共感を抱き、意欲的になる。



【午後】

3. 環境学習プログラム「自然に親しむプログラム」の紹介及び実習

(講師：NPO法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・環境学習は、命について考え、学ぶ学習である。子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。
- ・「森は命のみなもと」である。体験を通して、自然に生かされていることを感じ、自然を大切にようになる。
- ・どんな教科でも環境学習につながる。今回の研修会も食やごみ、自然、エネルギーなど様々な入口があるが、出口は一緒である。

(2) 自然体験学習のポイント

- ・環境学習では、知識より感性を大切にする。おおざっぱであることも大切。体験を通して、自然の大切さに気付く。

(3) 「自然に親しむプログラム」プログラム紹介と体験

①「葉っぱ合わせ」概要

- ・数種類の木の葉っぱを2枚ずつ用意して、どの葉とどの葉が同じ木の葉っぱか、色や形、手触り、厚さ、におい等をよく調べて葉っぱ合わせを行う。班ごとに、なぜ同じ葉っぱだと判断したのか、気づいた点などを発表する。
- ・使用した葉っぱが、実際に校庭のどこにあるのかを探しに行く。



②その他のプログラムの紹介

- ・ 自然ビンゴ、秋の宝物さがし、冬芽拡大図鑑
- ・ 「緑の役割を知ろう！」など

(4) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・ 詳しく観察してほしいと思って先に子供たちに細かく指示してしまいがちだが、葉っぱ合わせのように、子供たちに興味を持たせると、自ら詳しく観察するようになるのだと感じた。
- ・ 四季を通した自然観察も取り入れていきたい。
- ・ 学校でミニトマトや枝豆などを育てている。興味を持つと自然と観察するようになる。
- ・ 低学年にネイチャーゲームを活用していきたい。
- ・ 久しぶりに自然観察をすることができて楽しかった。

4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散